酒類・食品 News&解説
週刊

令和６年６月28日（金曜日）　第3402号
〈昭和42年７月10日第３種郵便物認可〉
毎週金曜日　発行　　編集発行人　石母田 健
購読料 ６ヵ月　14,300円（税込み）
振替番号 東京4－71739
発行所 株式会社日刊経済通信社
本社／東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋府川ビル９階
☎03(5847)6611㈹　FAX 03(5847)6600
名古屋支局☎052(253)6924　大阪支局☎06(6353)1791
http://www.nikkankeizai.co.jp/

’24年中元ギフト特集④

中元商戦本番へ全力

缶瓶詰

今夏の中元商戦は、６月以降ギフトセンターの開設が始まり本格スタートした。一部でネット通販が先行していたこともあり、百貨店、量販店、ギフトショップとも出足はややスロー展開となった。コロナ後、２度目の夏を迎えた今回は、ギフトセンターの来店客が一段と増加することが見込まれているが、物価高による節約志向の高まりで購買単価のダウントレンドを予想する向きもある。こうした中、各社は得意分野に特化した強みのある商品構成で商戦本番を迎えている。

ギフト向け出荷は、百貨店は５月下旬から、量販店では６月初旬からスタートした。昨年の歳暮期間中と同様に、早期割引企画が主流になりつつある。ギフトショップは６月末までにピークとなる見込み。通販関連では、60～70代のシニア世代でもネットを利用する人が増えてるためＡｍａｚｏｎをはじめ引き続き強化を図る動きもある。コロナ後は、店頭での販促を実施しているが、「消費者の反応は今ひとつ」（大手）との声も聞かれる。今年は物流費も上昇しているため、配送無料企画の商品の販売動向を注視している。

売れ筋の価格帯は、百貨店で５０００～１万円、量販店は３０００～５０００円だが、節約志向で単価下落傾向にある。カジュアルギフトは１５００～２０００円クラスが売れ筋となっている。

一方、原料事情は依然として厳しい。タラバは、禁漁明けの２０２３年アラスカ産はkg１万１０００円と高値圏。漁獲が少なかったことに加えて、米国内での消費が旺盛で引き合いが強い。ロシア産は中国向けの輸出が増えている。中国のロシア産活魚の高値買い（１３０％上昇）の影響で加工向け原料は少ない。相場はウクライナ侵攻の２０２２年の４５００～５０００円、23年は５０００～６０００円、24年も同水準にある。

紅ズワイは、国内産は２２００～２３００円と１割高。韓国産は１７００～１８００円と前年並み。輸入量も回復傾向にあるが、円安の影響が大きい。

ホタテは、福島第１原発の処理水の海中放水を受け、中国向け輸出がストップしているが、米国や東南アジア向けが増加していることから加工用原料の手当が厳しくなっている。陸奥湾産は５月下旬に実施された３回目の入札で最高値を更新。稚貝の斃死で不漁が長期化している。オホーツク産は漁獲は35万トン（今期32万トン計画）と漁獲はあるものの、生食（冷凍）向けであることから加工用としては使えない。陸奥湾産の養殖スタイルが海に吊るす垂下式であるのに対し、噴火湾産は地撒き式のため、砂をかんでしまうため加工用には不向きとなる。物量が少なく、大手水産では来年以降分の原料手当てを急いでいる。

瓶詰用の白鮭水揚げ量は昨23年は５万トン、一昨22年は７・５万トンであったが、原料価格は前年比２割高、７～８年前の２倍高となった。

赤貝は有明産が４年連続の不作。稚貝を撒いたものの全滅した。豪雨による淡水化で今年も漁獲の見通しはなく、今後回復するとしても早くて２０２６年以降となる見込み。栄養塩不足で海苔と同様に極度の不漁に見舞われている。こうしたことからブランド各社は中国産原料（サルボウ貝）を手当しているが、原料価格は中国国内の需要増と円安で９００円レベルまで高騰、一頃の国内相場を大幅に突き抜けている。

イワシは昨年はペルーアンチョビ禁漁のインパクトで飼料用需要が急増。今年は解禁となることから価格は落ち着くとみられるが、近海物は魚体が小さく、歩留まり悪化が懸念される。

イカは２０１６年から極度の不漁が長期化。主要各社はアルゼンチンの松イカ、カナダ原料を手当している

（２面に続く）

主な内容

’24年中元ギフト④ 1～5面
（缶瓶詰）
’23年度アイス市場 10面
４月のみそ出荷量 9面
ガラスびん市場 14面
旭食品、全国旭友会 11面
「第３回国際発酵・醸造食品産業展」 10面
首脳インタビュー サタリー吉雄常務 7面
トップ直撃 アサヒグループジャパン濱田代表取締役社長兼ＣＥＯ 15面
◎原料商品情報 8面

日刊経済通信社の刊行物

日刊食品通信
●A4判速報形式
●有力企業広告も掲載
●購読料 6カ月45,100円（税込み）
業界唯一の酒類食品総合日刊紙。多忙の時はヘッドラインをお読み下さい。本文も簡潔、明瞭です。

独自の調査による統計・レポートづくりを通じて50余年。今後も酒類食品業界をデータとして記録し続けます。
酒類食品統計月報
●B5判雑誌形式。毎号月末発行
●有力企業広告も掲載
●購読料 6カ月24,750円（税込み）